鷹岡、天間沢橋が完成

芦沢家の三代夫婦が渡初め

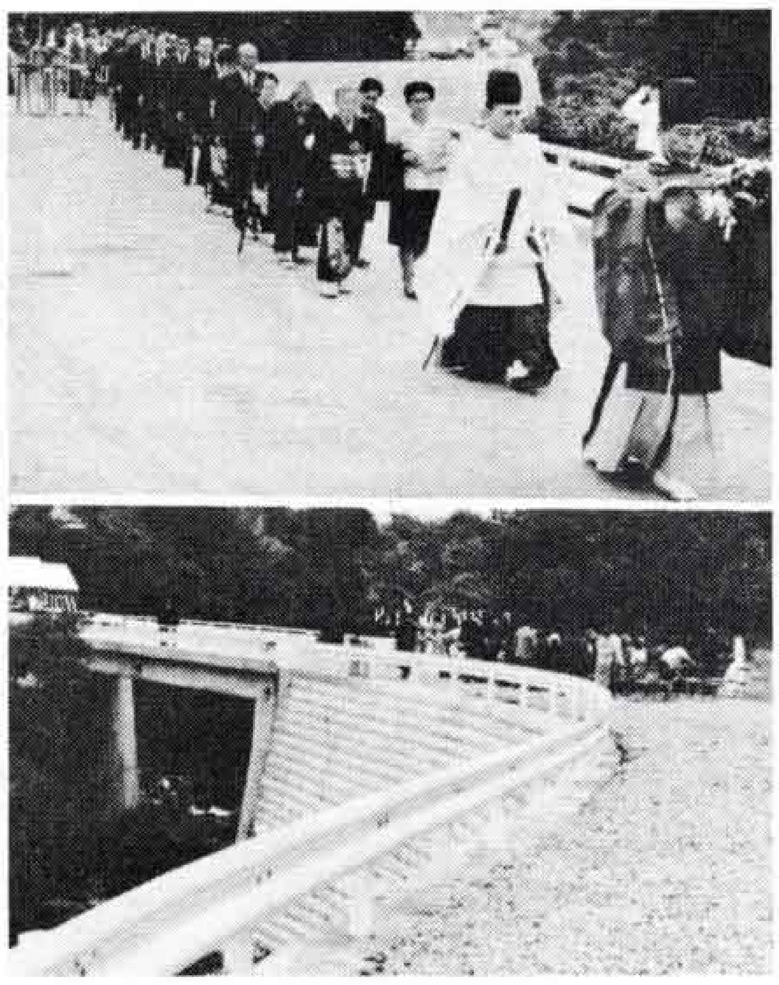
天間北に建設中の天間沢橋の渡り初め式が、5月27日、斉藤市長をはじめ関係者60人が出席して行なわれました。

渡り初めは、久沢東の芦沢家の三代夫婦を先頭におごそかに行なわれました。

天間沢橋は、野菜指定産地出荷近代化農道整備事業の、天間韮久保農道の一環として建設されていたものです。延長は18㍍、幅員6.5㍍、高さ13㍍の鉄筋コンクリート造りで、総工費は約1.600万円でした。

天間地域の畑地は約38㌶で、生産されるおもな生鮮野菜はキャベツ、ダイコンです。ところが、この地域の農道は幅員がせまく、こう配が急なうえ、排水施設も不完全です。このため、生鮮野菜の流通機構を改善し、経営の合理化をはかるため、昭和40年から野菜指定産地出荷近代化農道事業が実施されました。

天間韮久保農道は、この基幹農道として昭和41年から4カ年継続事業として改良工事がすすめられてきました。旧農道は幅員が3㍍から4.5㍍しかありませんでしたが、これを幅員6㍍に拡幅するとともに、こう配をゆるやかにします。総工費は3.800万円（1.600万円は橋梁費）で、総延長は1.694㍍です。なお、舗装も近く行なう予定になつています。



【写真＝上は渡り初めを行なう芦沢徳太郎(85歳)・にな(85歳)、進一(64歳)・とき(62歳)、乙司(35歳)・つや子(34歳)さんの3夫婦。下は完成した天間沢橋。】

住宅敷地の造成は届け出を

…対象は0.3㌶以上の造成事業…

住宅地造成事業規制の区域指定が4月1日から行なわれました。

この規制は、宅地造成が無秩序に行なわれ、災害や衛生に対して無防備な町づくりを行なわせないために実施されたものです。

指定された区域は、すでに決定されている都市計画区域（大淵、原田、吉永の北部を除く全区域）です。

規制の対象になる事業は、住宅敷地造成面積が0.3ヘクタール（約900坪）以上のものです。この住宅敷地は、敷地の60㌫以上が住宅用地に利用されるもので、造成地のなかに店舗があつても宅地とみなされます。したがつて、工場用地を主体とした造成工事は対象になりません。

新しく住宅地を造成する場合は県知事の許可が必要ですが、許可の申請をするのは事業主です。

申請先は市都市計画課です。くわしくは都市計画課（吉原事務所）へお問い合わせください。

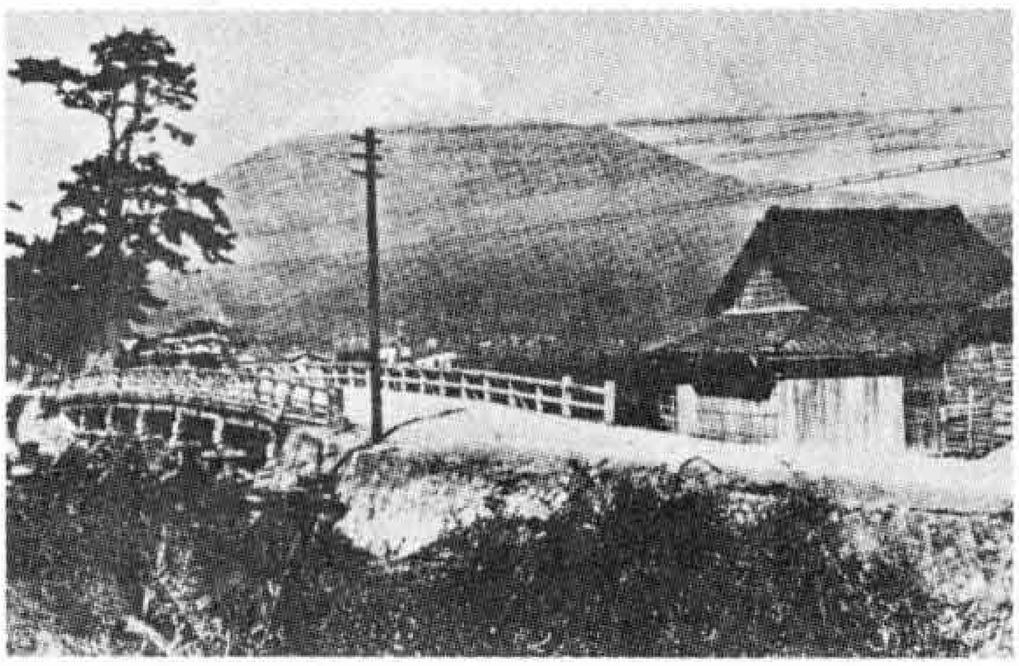
今と昔　今と昔

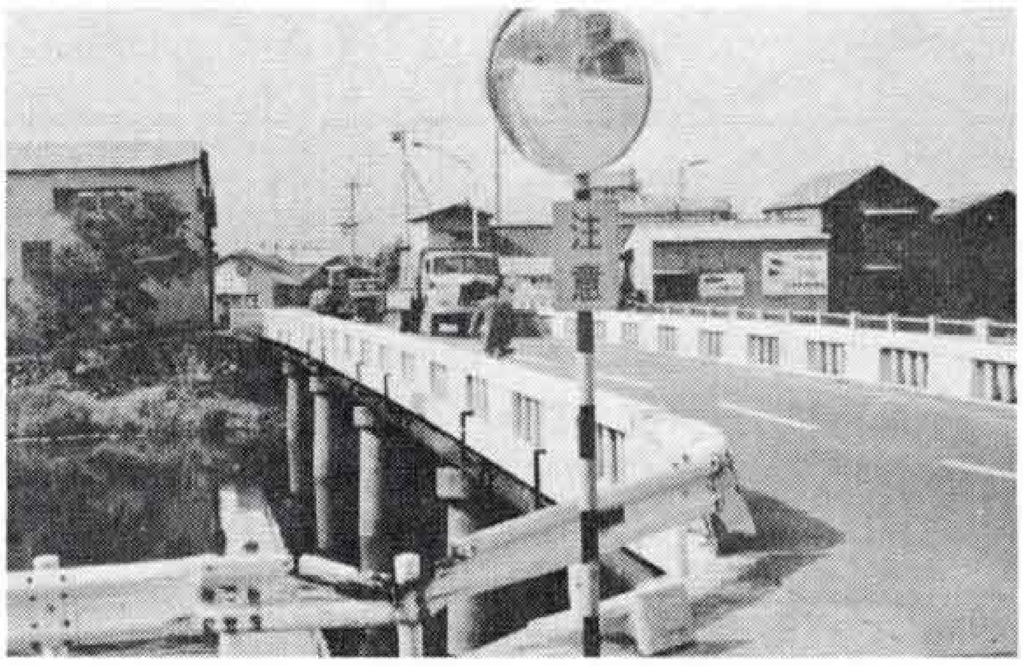
河合橋 ③　河合橋は元吉原に宿場のあつた慶長7年（367年前）に沼川にかけられました。当時、旅人は吉原湊を船で渡つていましたが、幕府の命令で船渡しができなくなりました。このため、沼川に長さ11間（約20㍍）の欄干板橋がかけられました。それから昭和14年に現在の橋がつくられるまで何回となくかけかえられました。

昔、橋の下流は白倉ケ淵あるいはいけにえの淵といわれ、大蛇が住んでいて毎年人身御供（ごくう）をやらないと災いを起したと伝えられています。上流の沼川と滝川の合流点も20㍍以上の深い淵でカツパの住み家になつていたといわれていました。

写真＝左は明治末にかけられた木橋の鈴川河合橋。右は昭和14年にかけられたコンクリートの河合橋。旧東海道を往来するとき、河合橋から見る富士山は松並み木に映えて美しく、名勝「左富士」に匹敵するながめでしたが、現在は写真のように松並み木はみられません。

※めずらしい風景、風俗写真をおもちの人はお貸しください。連絡先は市史編さん室（富士事務所）秘書課広報係（本庁）です。　（鈴木富男稿）





■ みんなで木と花を植えましょう